



病害虫発生予察情報予報第 10 号 (1 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		1 月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
タマネギ	べと病	早生マルチ	やや多	 タマネギ べと病 一次感染株
		中晩生	やや多	
	1. べと病 一次感染株 (越年罹病株) は、主に1月以降、発生がみられ始める。圃場の見回りを行うとともに、一次感染株を発見した場合は、速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出して処分する。			
施設果菜類	1. 病害全般 (灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病) こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内の結露を防ぐ。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせることで防除を行う。			
イチゴ (本圃)	ハダニ類	並	 ハダニ類	
	うどんこ病	並		
	灰色かび病	やや多		
	アブラムシ類	やや多		
	1. 灰色かび病 こまめな換気により、適正な湿度管理に努める。また、「いちごさん」では受粉後の花卉が外れにくいいため、果実での被害が発生しやすい。ブローア一等を用い定期的に花卉を除去する。			
2. ハダニ類 薬剤防除の際は、5~7 日間隔で系統が異なる薬剤を組み合わせを行い、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。また、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は天敵に影響の小さい薬剤による防除を行う。				
3. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。(導入可能日数は防除のてびき参照)。				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	1月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キャベツ	菌核病	並	 キャベツ菌核病
	黒腐病	やや少	
	アブラムシ類	やや少	
	チョウ目害虫	やや多	
1. 菌核病 発病株に形成された菌核は次作の伝染源となるため、早期発見に努め、発病株は圃場から除去して土中に深く埋設するなどして適切に処分する。			
トマト	葉かび病	並	  黄化葉巻病 黄化病
	灰色かび病	やや多	
	コナジラミ類	やや多	
1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 コナジラミ類の幼虫・蛹は中～下位葉に寄生していることが多いため、不要な葉は除去し、適切に処分する。ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を徹底する。			
アスパラガス	1. 茎枯病、褐斑病、斑点病、アザミウマ類、ハダニ類 これら病虫害を次作に持ち越さないよう、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分するとともに、圃場全面を丁寧に焼却する。		
キク	白さび病	並	 ハダニ類
	アザミウマ類	並	
	アブラムシ類	並	
	ハダニ類	やや多	
	ハモグリバエ類	やや多	
1. ハダニ類 一部圃場で発生が多い。多発すると防除が困難となるため、低密度時からの防除を徹底するとともに、薬剤防除の際は、葉裏や下位葉にも薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。			

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji/00321928/index.html

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（2ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～2ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

1月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する1月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和5年12月21日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における1月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	30 (5.8℃)	60	高い
降水量	40	30 (54.1 mm)	30	並

Ⅲ. 1月の予報

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 20 圃場、防除員 4 圃場
調査日：12月18～20日



1. ベと病

1) 予報の内容

【早生マルチ】発生量：平年よりやや多い

【中 晩 生】発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1、図2）

【早生マルチ】 発生株率：0%（平年0%、前年0%）、平年比：並（±）

【中 晩 生】 発生株率：0%（平年0%、前年0%）、平年比：並（±）

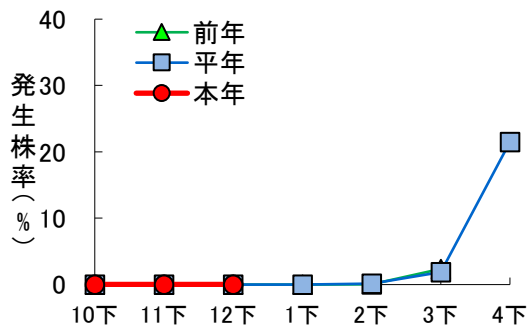


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

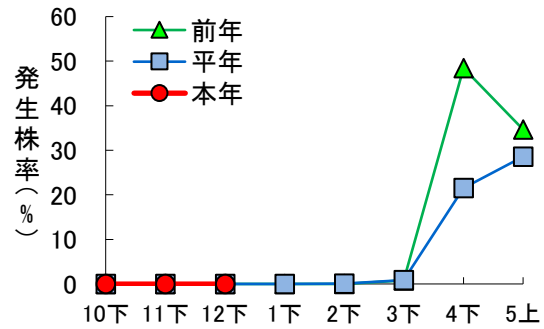


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

(2) 圃場の菌密度

平成25年以降、発生株率・発生圃場率ともに高い傾向が続いており、本圃の菌密度は高いと推察される。
（±～+）（図3参照）

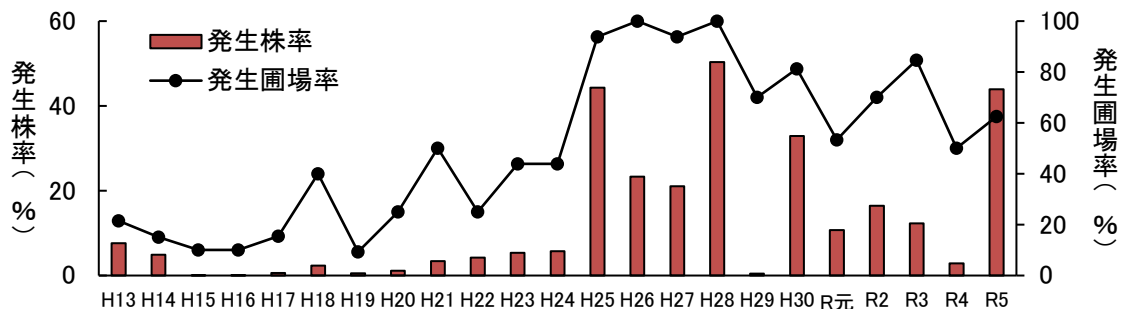


図3 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移（4月下旬の定期調査結果）

(3) 1月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

イチゴ（本圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：12月15～21日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：16.1%（平年 16.8%、前年 27.5%）
平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
- (2) その他については、特記事項を参照する。

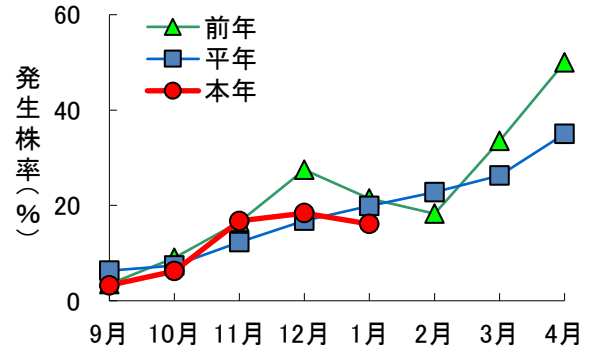


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年 2.6%、前年 0%）
平年比：やや少（-～±）

(2) 1月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 約10～14日間隔の薬剤防除を徹底する。
- (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

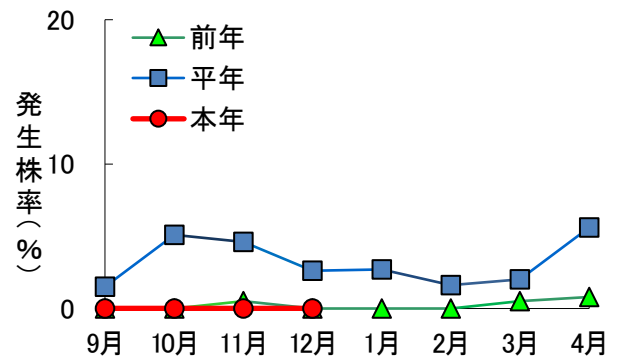


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年並よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生果率：0.5%（平年 0.2%、前年 0%）
平年比：やや多（±～+）
但し、発生は一部圃場に限られる。

(2) 1月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

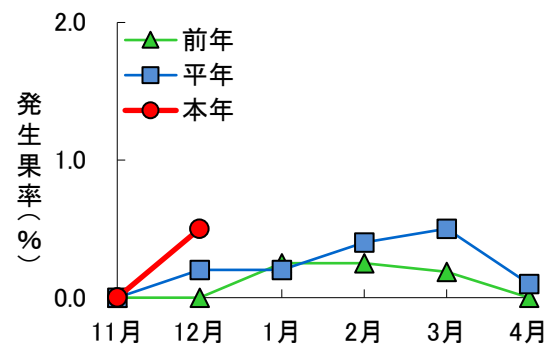


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

(1) 特記事項を参照。

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：2.8% (平年 1.5%、前年 0%)

平年比：やや多 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

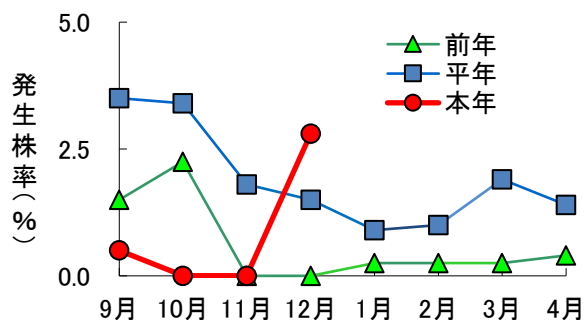


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キャベツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 8 圃場

調査日：12月15日～18日



定期調査圃場の様子

1. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：0.1% (平年0.1%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 12月の気象予報

降水量が並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

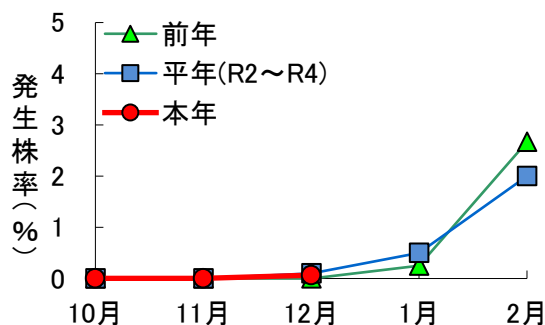


図1 キャベツ菌核病の発生推移

2. チョウ目害虫

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：3.1% (平年0.9%、前年0.6%)

平年比：多 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 結球葉に食害が認められる場合は、追加防除を行う。

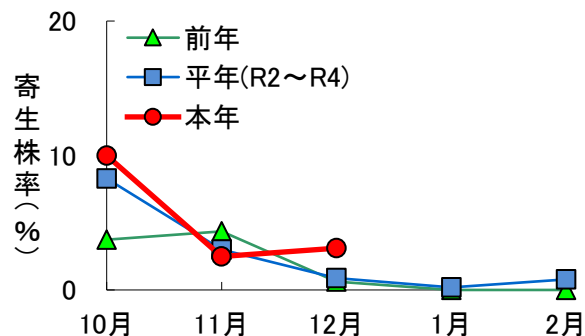


図1 キャベツでのチョウ目害虫の発生推移

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6 圃場、防除員 4 圃場

調査日：12 月 14～18 日



定期調査圃場の様子

1. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図 1 参照)

発生株率：1.0% (平年 0.7%、前年 0%)

平年比：並 (±)

(2) 1 月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項 (施設果菜類の項) を参照。

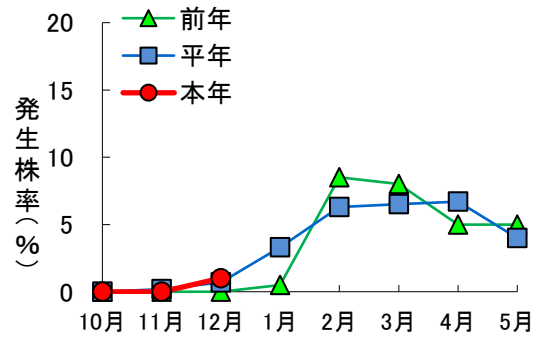


図1 トマト灰色かび病の発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図 1 参照)

発生株率：7.5% (平年 3.9%、前年 9.0%)

平年比：やや多 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

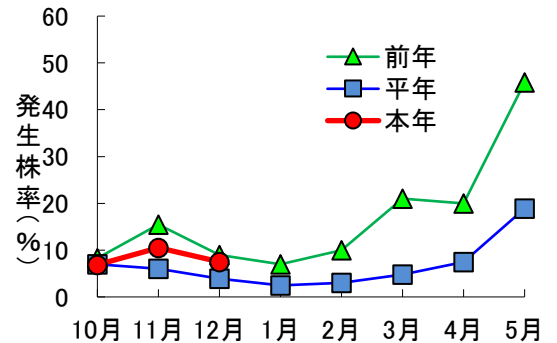


図1 コナジラミ類のトマトでの発生

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査 7 圃場

調査日：12 月 14～20 日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

発生株率: 0% (平年 2.8%、前年 0%)

平年比: 並(±)

(2) 1月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) こまめな換気により適正な湿度管理に努めるとともに、発生前からの定期的な薬剤散布を実施する。

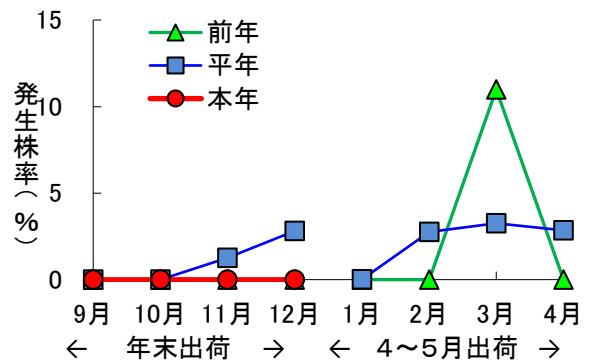


図1 キク白さび病の発生推移

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

発生株率: 9.4% (平年 6.2%、前年 9.3%)

平年比: やや多(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

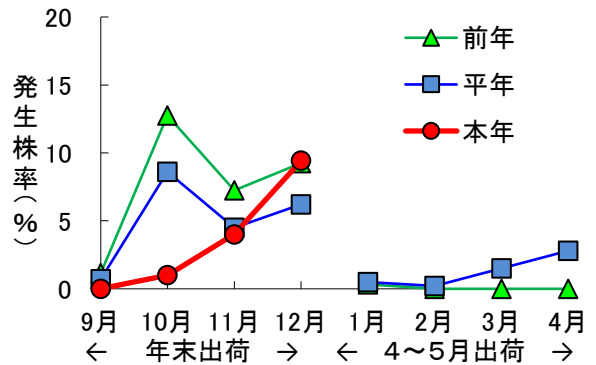


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

3. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

発生株率: 0.3% (平年 0%、前年 0%)

平年比: 多(+)

但し、発生は一部圃場に限られる。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下葉にも薬液が十分かかるよう散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

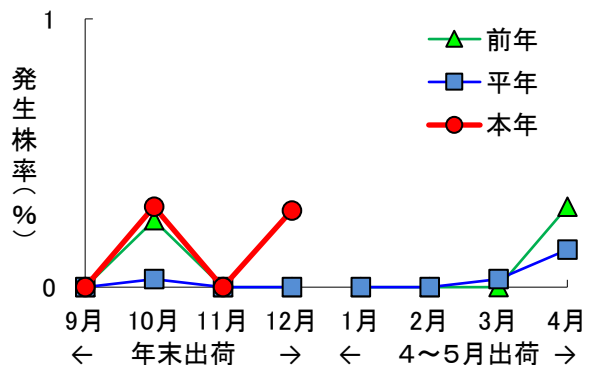


図1 ハモグリバエ類のキクでの被害株率の推移

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

